

# 二度目の挑戦

～埼玉親善大使として～

山崎 香

今回私はドイツのブランデンブルグ州に埼玉親善大使として派遣されました。私自身ドイツへ行くのは二回目ですが不安な気持ちというのは全くなく、楽しみな気持ちでいっぱいでした。具体的にドイツで何をしたかという到着して数日はブランデンブルグ州に滞在して観光やドイツ料理、ドイツの歴史などを堪能させていただきました。ベルリンの壁やサンサーシー宮殿など世界遺産に登録されている有名どころはもちろん印象に残っているのですが、個人的には州議会見学ツアーが特に印象に残っています。ドイツでの州の役割はとて大きく、例えば法律や学校の教育方針、祝日などは州に決める権限があります。そんなブランデンブルグ州の州議会を訪問することができて私はとても光栄です。州政府という概念は日本にはないので想像しにくいと思いますが、州議会の議員も国民によって選挙で選ばれ州政府を組織します。ドイツでは州が非常に重要な役割を担っているため州の中にも内閣があるとイメージすると思います。実際に討論が行われている部屋に案内してもらい、その部屋でみんなで写真を撮りました。内部は光が入り込みやすい造りになっていたり、白を基調としてとても爽やかな印象を受けました。議会なので厳かで堅いイメージを持っていましたが、実際は明るい雰囲気がありました。後半はワールドストリートサッカーチャンピオンシップに出場してきました。この大会はもともとドイツ国内のみで行われていた大会だったのですが、今年はワールドカップイヤーであるとのことで、世界中から11チームが参加しました。フットサルコートより小さく、周りが壁で囲まれているコートの中で3対3の試合を4分間行います。攻守の切り替えが激しく想像以上に疲れました。この大会の特徴はフェアプレイ精神を掲げていることです。試合には審判はいません。試合前には選手全員と必ず握手をしなければいけません。また、もし試合中にファウルをしてしまったら、自己申告をしてボールを相手に渡します。試合直後にも必ず全員と握手をして互いに健闘を称えます。そして試合が終わりコートの外に出ると選手たちはある場所に向かいます。その場所とは、コートの横に併設されているフェアプレイテーブルと呼ばれる場所で、試合中のフェアプレイに対する評価を行う場所です。試合直後に選手が互いのフェアプレイに関してそこで討論します。なにもなければナイスゲームでしたと終わるのですが、なかにはヒートアップしてしまって少し口論になる場合もあります。ですがそこもフェアプレイ。お互いに意見を尊重しつつ、フェアプレイができなかった人はしっかりと反省して次に活かします。私はこの一連の流れにとて感銘を受けました。私は普段11対11のサッカーをやっているのですが、そこには審判がいて危険なプレーがあれば審判が止めに入り、注意を促し試合を裁いてくれます。もし審判がいなければ試合

は成り立たず、危険なプレーが増えてしまうのではないかと思います。そんな中、今回のような経験を通じて、フェアプレイはとても大切だなと思うのと同時に、一層フェアプレイ精神をもってサッカーをしていきたいと思いました。

様々な国の選手が集まっているので、もちろん国際交流も生まれます。最初のオリエンテーションでゲームに参加しましたが、そこで日本の事を紹介する機会がありました。その時は日本についての画像が何枚か提示され、それについて簡単に紹介しました。その画像は日本の国旗や地図、安倍首相、お弁当、相撲、舞妓さん、お寺などでした。私はそれらの画像を見て外国から見た日本のイメージはこういうものなんだと思って面白かったです。私も積極的に英語や時にはドイツ語を使って色々な人と会話しようと心掛けました。うまく通じた時があれば、上手に伝えられなくて苦しんだ時もありましたが、いい経験になりました。私は途中で国際交流という面で恥ずかしい行動をとってしまいましたが、行動を共にしていた仲間や県の職員の方のおかげで、その後も積極的に国際交流をすることができました。現地にはたくさんドイツ人の子どもたちもいてその子たちと関わることも面白かったです。全く知らないドイツ人のある家族が日本チームのサッカーを見て私たちのファンになってくれて、いつも応援してくれました。また、私たちが試合に負けてしまった時には同じように悲しんでくれました。少しの時間しか一緒に過ごしていませんでしたが、応援していただいて本当に感謝しています。子どもたちは英語が話せる子がそれほど多くないので、コミュニケーションという面ではとても苦労しましたが、一緒にボールを蹴ったりするうちに仲良くなり、すれ違う時には必ず挨拶をしてくれました。とても無邪気で可愛いドイツの子どもたちとも仲良くなれて、これもまたいい経験になりました。

最後に、埼玉親善大使として今回このような機会を与えてくれた事にとっても感謝しています。2020年には東京オリンピックがあります。埼玉はいくつかの種目の会場にもなっているので、今回の国際交流を通して学んだことを活かして自分の可能性を広げていきたいと思いました。

